



あかり木通信

2018年6月号
あかり木診療所

ワクチン接種と抗体検査について

今年3月に沖縄県で麻しん(はしか)の流行がはじまり、その後愛知県などに流行が拡大し、5月には神奈川県でも麻しんの感染者が確認されたと報道されました。このようなことがあると、報道ではワクチン接種が呼びかけられるため、「私はワクチンを接種したほうがいいですか?」という質問を受けることが多くなります。あかり木診療所では、基本的には「抗体検査を受け、抗体が基準値未満の場合には接種をおすすめします」とお答えします。以下にその考え方を解説します。

麻しんは、1回かかったら体内に「抗体」がつくられ、再びかかることはありません。ワクチン接種でも同様に抗体がつくられますが、かかった場合とくらべると抗体のできかたが不十分な場合もあります。麻しんワクチンは2回接種すると十分な抗体がつくられることが多いといわれています。わが国では昭和53年から麻しんワクチンの定期接種(1回)がはじまり、平成18年にMR(

麻しん風しん混合)ワクチンの2回接種となり、平成2年度以降に生まれた人は、スケジュール通りに接種していれば2回接種が済んでいることになっています。しかし、2回接種しても抗体のできかたが不十分な人もいることがわかっていて、実際に麻しんにかかってしまった人もいます。麻しんの抗体が十分できているかどうかは、血液検査をすれば数値としてわかります。抗体が基準の数値以上あれば、麻しんにかかる心配はありませんが、数値が足りなければワクチンの接種をおすすめします。ワクチンを接種した場合には、6週間以上あけて数値が十分になったか、再度血液検査をして確認すれば確実です。なお、麻しんにかかったことが確かな人、平成元年から4年間だけ行われていたMMRWワクチンを接種した人は、ほぼ確実に抗体ができていますと考えられます。抗体が十分あるのにワクチンを接種したとしてもとくに健康上

あかり木診療所で実施している抗体検査方法と基準値

	抗体検査方法	ワクチン接種勧奨の基準値
麻しん	IgG/EIA 法	8.0 未満
風しん	HI 法	32 倍未満 (16 倍以下)
	IgG/EIA 法	8.0 未満
水ぼうそう	IgG/EIA 法	4.0 未満
おたふくかぜ	IgG/EIA 法	4.0 未満 (4.0-6.0は要相談)

の問題はありませんが、ムダです。麻しんワクチンには、麻しんだけのワクチンの他に、風しんワクチンと混合のものがあります。風しんは「3日はしか」ともよばれ、麻しんと名まえは似ていますが、別の病気です。風しんの症状自体は、一般に麻しんより軽いことが多いですが、女性が妊娠中にかかること、赤ちゃんに影響がみられることがあります。そのため、とくに女性は妊娠する前に抗体検査を受けることをおすすめします。現在、横浜市在住の妊娠を希望している19歳以上の女性と、そのパートナーの男性は、風しん抗体検査費用の助成を受けることができ、自己負担額はありません。なお、妊娠中にワクチン接種を受けることはできません。

水ぼうそう、おたふくかぜも、抗体をはかることができず。抗体検査は自費負担が必要で、結果は4日前後でわかります。医療関係者などは、抗体検査が義務づけられていることも多くあります。

带状疱疹ワクチン

水ぼうそうにかかったことがある人は、2度と水ぼうそうにはかかりませんが、「带状疱疹」を発症することはあります。これは、一度かかった水ぼうそうのウイルスが体内に潜んでいて、何年もした後(一般的には50歳以降くらい)になって、体力や抵抗力が低下したひょうしなどに、体の左右どちらか片方の一部分に発疹ができる病気で、場合によっては痛みが長引くことがあります。带状疱疹専用のワクチンというものは現在ありませんが、子どもの接種に使用している水ぼうそうワクチンを接種すると带状疱疹の発症を予防する効果があることがわかっていますので、50歳を過ぎた人は接種を考慮してもいいでしょう。